

名古屋コーチン卵 形・重さ 画像測定

育種改良研究に活用

愛知工業大が装置

【名古屋】愛知工業大学の塚田敏彦教授らは、愛知県特産の鶏「名古屋コーチン」の卵を定量的に検査できる装置を開発した。卵の形や重量を画像処理で判別する。愛知県農業総合試験場で試験的に使用している。画像測定を採用するのは初めて。今後は名古屋コーチンの卵の特徴である斑点の多さやバラつきも判別可能にし、育種改良研究に役立てる。

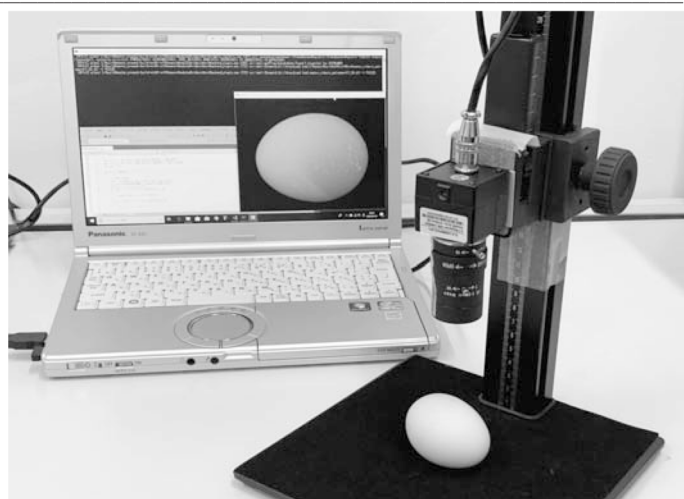
卵の重さは画像に写った卵を薄くスライスし、断面積と厚みから体積を求める。卵の密度はほぼ一定のため、体積と密度を掛け合わせて重さを判定する。形状は理想形状のデータに基づき、実物と違いを比べて判定する。卵の重さ、形は個別の装置で判別するの

一般的。同装置は形、重さなどを定量的にデータとして取得することで判別精度の向上につながる。

名古屋コーチンの卵殻の色は桜色で、卵殻の表面に白斑点が多く付着していると品質が良いとされる。現状は卵殻に付着する斑点は目視検査に頼っており、

判別結果にバラつきが出やすい。斑点の判別は卵自体の桜色と、斑点の白色それぞれの色の面積を画像識別する方法で行う。斑点のバラつきの測定方法もめどをつ

きが出やすい。斑点の判別は卵自体の桜色と、斑点の白色それぞれの色の面積を画像識別する方法で行う。斑点のバラつきの測定方法もめどをつ



卵を定量的に検査できる装置

して組み込む。卵自体の色も画像判定の基準作りを進めている。

画像処理で農畜産物を判断し、定量的にデータを取得することは、品質を客観的に評価できるため、近年増えているとい